

2026年9月20日 司教様の按手と病者の塗油

10月 聖書朗読について

主任司祭 ビジュ・キシヤケール

5月から教会共同体で聖書を読む習慣を始めてから5ヶ月になりました。毎週2章ずつ各家庭または各自で読むように勧めています。5ヶ月になった今は創世記46章になり、あと3週間で創世記が終わります。信徒の多くの人から「聖書を読む機会になりました」「まとめて創世記を読んだことがない」「教会で少しずつ読むので読みやすい」など色々な意見をいただいています。できるだけ、解説の主なポイントを参考にしながら読んでいただけるよう準備していますが、信徒のみなさんは決められた箇所をお家や自分の都合のいい時間や場所ですんでいただければと思います。また、リレーも行っていますが、これは目で見える形として行うことであり、できる限り信徒のみなさんにリレー担当にもなってほしいと思っています。他の教会の信者さんが南山のミサにいらして、「よい取り組みですね」と何度か言っていた方もいました。「目立ちたくない」あるいは「続けて2回同じミサに来られるか分からない」などの理由でリレーを断る方もいますが、ぜひ、南山教会信徒として、共同体で取り組みこの大切な運動に参加していただき、聖書に親しんで欲しいと願っています。

聖書を読むことで、人生において、今まで気づいていないことに気づいたり、悩んだり、困っていたりする時の道しるべになることもあります。みなさんの積極的な参加をお待ちしています。

平日のミサ時刻：

月曜日・火曜日・水曜日・

木曜日・土曜日 午前7時

第4土曜日 午前10時30分 子供のミサ(ナザレ館)

金曜日 午前10時

ゆるしの秘跡は各主日ミサ前に受けることができます。

主日のミサ時刻：

土曜日 午後5時 (ミサ前4時半聖体賛美式)

日曜日 午前8時・10時

Sunday Mass in English 9:30 am

(in the Marian Hall)

ベトナム語のミサ 第4日曜日 午後2時

第6回小教区宣教司牧評議会

10月4日

司祭団より

・11月28日(土)29日(日)石川巡礼。七尾教会と輪島教会でミサ。参加者18名。マイクロバス利用。

11月28日(土)8時ナザレ館前集合。11月29日(日)20時30分頃帰着予定。

・12月6日(日)神学院の方々とミサを捧げます。当日ミサは、9時30分一本とし、8時と英語ミサは行わない。

・来年の堅信式は7月4日(日)の予定。

・先日の敬老会の時に車椅子の方や足の悪い方が大聖堂で不便だと感じたので、不自由な方に対応できる席を用意したい。案内係の方々も立ちっぱなしとなっているので後ろの空いたスペースに席を用意したい。子供が泣いた時にも対応しやすくなる。女性の案内係もいたら良い。

報告・連絡事項

1. 10・11月予定確認(信徒代表)

10月4日評議会、10月11日聖堂等清掃、10月24日バザー前日準備、10月25日バザー(この日は共同休合同ミサとし、9時半ミサの

み。司式は傍島師)、14時ベトナムコミュニティのミサ、その後聖堂等清掃11月1日評議会・納骨堂追悼ミサ、11月8日聖堂等清掃、11月15日子どものミサ(七五三)、11月22日午後ベトナムコミュニティのミサ、その後聖堂等清掃。11月29日(第5週の共同休合同ミサは翌週へ変更する、この日まで8時、10時。英語ミサ9時30分(ホール))

2. 教会の設備について(営繕委員)

12月6日(日)共同体合同でのミサ 9時30分のみ
堅信式は、例年の2月ではなく、7月4日を想定。

・小聖堂と大聖堂玄関陸屋根の排水溝の清掃につき、お手伝いいただけの方を募集し9月中に行う予定でしたが、8日の豪雨の後、早急に行う必要があり13日に完了しました。今後はお手伝いいただけの方を募集し年二回行う予定です。できるだけお願い致します。

・香部屋音響設備パワーアンプ、香部屋水栓の不具合があり、いずれも長谷川さんのご奉仕により修繕していただきました。いずれも専門知識を要し、専門業者に依頼すれば、高額な費用が掛かりますので大変助かっています。

・聖堂横の女子トイレの扉のガラ

ス部分が破損した為、業者に依頼し修繕を行いました。

・マリア館厨房倉庫、冷蔵庫上の雨漏りについて

マリア館の雨漏りについては、その上部にあるマリア館空調と側溝の水たまりが原因であると考え対処して様子をみています。豪雨の後やはり雨漏りをしていましたので業者に調査を依頼するか検討中です。

・音響設備について

マリア館音響設備のスイッチの内、操作できない様にカバーが設置してある部分の電源がオフになっており行事に支障をきたすことがありました。

また香部屋のワイヤレスマイクの電源がオフになっており、充電ができない状態になっているとの報告がありました。決められているスイッチ以外の操作を行わない様にお願致します。

司祭館の前に臨時で駐車場を増設している場所について、砂利を敷くかアスファルトにするか見積もりをとる方向で考えています。とりあえず土止めをするなどは有志の方々のご奉仕で行なっていく予定です。さらに綺麗に使いやすくしたいです。聖堂横の生垣には蜂の巣などができやすいため伐採しており、その場所にはバラを植えま

3. 典礼奉仕者全体集会(典礼委員会・典礼奉仕者の会)

9月13日(日)10時ミサ後、典礼奉仕者全体集会が行われ、典礼委員長のウィル神父様より、「ミサを知る、ミサを生きる」というテーマで、奉仕とは何か、典礼奉仕者にとって一番大切なことの講話があり、心に残るお話でした。典礼奉仕者の意思確認が行われ、任命がありました。典礼奉仕に関する確認が行われました。

「聖歌隊」から「聖歌奉仕」へ名称が変更になりました。奉納の運び方についての質問が寄せられ、実演形式で確認しました。ご参加くださった方々はありがとうございました。

4. 敬老会(信徒代表)

大勢の75歳以上の参加があった。記念品は、福砂屋のカステラとコーヒーチケット・子どもたちの折り鶴と花の種のプレゼント。松浦司教様による司式。今後、司教様の司式を恒例にしたい。教会学校と中高生会が歌でお祝いした。

5. 教会美化・倉庫整理(信徒代表)

9月27日に行われた。処理は石川マテリアルに依頼。費用は81,400円で昨年度の半分以下

になりました。有志の方が工夫をして安くなりました。

6. 社会委員活動報告(社会委員)

◎11月8日(日) 14時〜第3回城東ブロック会議は、南山教会で行います。参加者予定約25名。

司祭の参加、場所の確保(マリア館ホール)、飲物とお菓子(事務所のクッキー)の準備は30名とします。資料の印刷等の準備が必要です。(社会委員全員で準備を行います。)

◎11月29日石川巡礼 上記の司祭団の報告を参照のこと。

7月12日第2回城東ブロック会議議事録から…城東ブロック北陸支援日の担当教会は、南山教会となっています。18名参加予定で輪島教会へ巡礼し、主日のミサを南山教会主任司祭司式(城東ブロック)で行います。

審議・相談事項

1. 日曜日のミサ時刻について(信徒代表)

日曜日のミサ時刻を8時、9時半、11時(英語ミサ)とする。実施は12月13日から。評議会のある日は、共同体合同ミサとする。各月第1日曜日に聖堂等清掃を設定することも考える。このようなことの意見交換のメールは評議会の全体メールでやり取りを共有すべき

と言う意見がありました。

2. バザーについて(バザー実行委員長)

当日のミサは9時半のみ。司式は傍島師。できるだけ、このミサに参加してほしい。前日準備は13時から。当日のアトラクションは、11時から南山男子部奇術部、その後、牧野が池ブリーズバンド、さらに、インドネシアのダンス、ベトナムのダンス。14時終了。その後バザー委員会(反省会)。

アトラクションの方々の控室はマリア館2階の和室を使います。また駐車場も2台司祭館前を確保します。フリーマーケットですが、バザー終了後に2週間お持ち帰りできるようにします。

3. 防犯カメラの整備について(信徒代表)

聖堂横女子トイレの窓ガラスが破られたことを受け、整備を急ぐ。トイレ付近だけではなく、気になるポイントに何箇所か整備します。現在、業者選定中です。

4. その他

典礼委員会から、クリスマスの催しについて(実施できるかは別として提案です)クリスマスキャロルを各グループで披露(聖歌奉仕・ベトナム・インドネシア等)聖劇発表の機会。教会学校の子供

達の聖劇と一緒に行う案が出ていますが検討中です。共同体のみんなで楽しみたいです。

各会報告

・要約筆記付きミサについて10月10日(土) 11月21日(土)に日程を変更します。

・マリア会は11月第2金曜日に行いますが、バザーの慰労会としてマリア館ホールで行います。マリア会以外の方が参加可能か調整中です。童謡を披露する会の方の朗読があります。

・オルガン管理委員会

10月29日(木) 9時〜16時30分
大聖堂パイプオルガンの後期点検、調律を行います。

レジオマリエ

黙想会のお知らせ。10月17日土曜日13時30分から午後4時まで、マリア館ホールにて、コンベンツアル聖フランシスコ修道会所属の春日井教会主任司祭北向神父様をお招きして黙想会をします。特別聖年に因んで聖フランシスコから学ぶことというテーマで講話があります。ロザリオ、ミサ、希望者には赦しの秘跡があります。どなたでもご参加頂けますので、お誘い合わせの上ぜひご参加下さい。持ち物はロザリオのみです。

典礼委員会

10月24日(土) 25日(日) 神言

会 傍島神父様 司式 ※25日

(日) 9時半ミサ 1本のみ 共

同体ミサ 8時と英語ミサはありません。

10月18日(日) 10時ミサ 教会

学校・中高生のお子さん奉仕

11月1日(日) 主日すべてミ

サ、南山教会の帰天された信徒と先祖のために捧げられます。

14時30分 納骨堂管理委員会主催ミサ

11月8日(日) 10時ミサ後 朗

読奉仕者の集い開催予定(詳細は後日)

11月15日(日) 10時ミサ 七五

三祝福 教会学校・中高生のお子さん奉仕

オルガン管理委員会

10月29日(木) 9時〜16時30分大

聖堂パイプオルガンの後期点検・調律を行います。

教会学校

10月11日(日)

聖マリアの無原罪教育宣教修道会のシスターと土曜学校の子供達と祈りと聖歌等の集いをします。

次回11月1日

アナンシ助祭着任



私は、アックア・アナンシー・エヴァンスと申します。アナンシーと呼んでください。私は、2019年10月18日に日本に来ました。3人姉2人妹、弟の6人兄弟です。私は日本語が全く話せなかったので、最初の2年間は日本語と日本文化を学びました。2022年4月から南山大学で神学を勉強し始め、今年3月に修了しました。私は、ガーナで2015年7月に神学校へ入り、2019年7月に初誓願をたて、来日し、今年3月9日に神言神学院で終生誓願を14日に助祭叙階を受けました。音楽を聴くのが好きで、一番好きなのはハイライフというガーナの音楽です。ダ

ンスも好きですが、下手なので、誰にも見られないように自分の部屋で踊ります。好きな聖書の箇所は、ロマ8・18「現在の苦しみは、将来わたしたちに現わされるはずの栄光にくらべると、取るに足らないとわたしはおもいます」どうぞよろしく願います。



教会キャンプ

はかまだ ちひろ

きょうかいキャンプのおもいでわたしは、きょうかいキャンプがたのしかったです。なぜなら、いつもわたしがたべたいとおもっていたホスチアをたべられたからです。ほかに、わたしは、アイパークのボブスレーながしそうめんやばーべきゅーほてるでのねとまりもたのしかったです。

とくにわたしはしゅうどういんにいったことがころにのこっています。そこでわたしは、しすたーがながいじかんをかけておいのりをしていることがすごいとおもいます。じぶんもおいのりをがんばろうとおもいます。

神への従順

袴田 茂太郎

僕は今年、人生二度目の教会キャンプで家族や他の仲間と共に、長野県にある泰阜村と言う村に行つた。と言っても、その日は父が出張に行っていたため、僕を含め妹と母の三人で最初目的地を目指した。

キャンプ当日、僕達家族は、少し早めに昼食をとり、車に乗り込んだ。その時僕は既に、部活の合

宿や塾の夏期講習、夏休み中の学校行事等で、疲労感を抱いていたことを鮮明に覚えている。そんな中、車は走り出した。車のナビを任されていたせいか、長野までの道のりはとても長く感じましたが、道中のサーブিসエリアや、皆で祈りを捧げた聖マリア像とそこに伝わる逸話に触れたことで、少し息抜きをし、心を落ち着かせることができました。その後、集合時間一分前で待ち合わせ場所である郷土館に到着し、館内を見回った後宿にむかいました。

宿に関しては、少々窮屈な気はしたが、なんとか家族が全員で寝られる大ききだった。そしてそこをキャンプ活動の拠点とし、その付近でバーベキューや流しそうめん、花火大会を行い、さらにそこから出向いてカルメル修道会で修道女達の日々の生活やホスチアの作り方を知り、又、アイパークに行きボブスレーに乗りもした。

今回のキャンプを通じ分かったり得たことの一つを一言で言うとして、「神への従順」という言葉が思い浮かぶ。これは修道女達の祈る姿や、神の御言葉を受け止める姿勢から見いだした言葉だ。日々教会に通う人達、あるいは、信徒でなくとも、試験や結婚、葬儀の際には、神を求め、神に誓い、神

に願うだろう。つまり、皆心の奥底では神を認め、神を愛している。それを祈りとして神に伝え、行動として神に報い、その思いを周りに広げることこそ、本当の意味での従順なのだと思ふ。

小学校最後の貴重なキャンプ

ニヤリン

今年のキャンプはいつものキャンプよりも貴重な体験をさせてもらいました。

最初の日、かくれキリシタンがあったところを見学しました。マリアさまのほえみがとてもきれいでした。そしてキャンプ場につき、みんなと人狼やU.N.Oをしました。とても楽しかったです。その後BBQをしました。おいしかったです。

2日目、虫とりやボブスレーをして、体をとて動かした日でした。その夜、大ふしやカードゲーム、花火をしたのしかったです。

最終日、カルメル会修道院をたずねました。ミサをやりホスチアをつくっているところをみさせてもらいました。ホスチアの試食をさせてもらったり、つくらせてもらったり、とても貴重な体験をさせてもらいました。そのあとはお

かしをもらってかいさんしました。おわり

村井あおぞら

今年の夏も教会のキャンプに行ってきました！いつもながらとても楽しいキャンプでした。特に、ごはんがおいしいことが印象的でした。朝は食堂で昼と夜は屋外でご飯を食べました。私は屋外で食べる食事が特に好きです。自由に友達と話しながら食べるとごはんのおいしさも二倍になるといふものです。また、ごはんを共に食べながらおしゃべりをするとういうことが深まる気がします。こういうことを言ううと母から怒られてしまうかもしれませんが、私はひそかにこの現象を最後の晩餐効果、と呼んでいます。イエス様も最後の夜に仲間と食卓を囲み、プラスでもうすぐ私は殺される、という緊張感も加わり、最後の晩餐効果と吊り橋効果の合わせ技シチュエーションで奇跡の醍醐味がうみだされたのか、と感じたキャンプでした。改めて神さま、ごはんを作ってくれた方々、キャンプを企画してくれた方々、友だちのみんな、ありがとうございまして！

敬老のお祝いを受けて

菅井 惇子

私は「神の計らいは限りなく生涯 私はその中に生きる」の詩編が好きだ。

18才で新潟から名古屋に来て、南山教会で受洗の恵みを受けた。1968年、一宮市から名古屋に転勤となり、夜半、アパートで強盗に出会い、それが機に、現在のマンションを購入、昭和区が終の住まいとなった「思いもよらぬことである」

毎年、敬老の御祝いをして頂き、喜んでいたが、今年は神の愛の「ムチ」右手首骨折で決意させてもらえた。絵の制作、毎日の飲酒を止めたことは神に感謝している。

友人に「今終活中」と話すと「何時死んでもおかしくない歳だね」と遠慮なく言ってくれる人が多い。世事にうとい私は「宇宙人」というニックネームもついていた。私の総字画は34字「変人・奇人」と出る。その通りである。

暖かい人々に囲まれてて私は幸せだった。好きなように、生きたように、生まれてこれて思い残すことはない。

残された人生は「この世の価値観で生きてきたこと」を今頃反省し、「ギリストの価値観で生きて

いく」と決意した。実践できるかな？

先日、通夜で、拝顔できたある司祭のなんと「清々しい、おだやかな笑顔」にあやかれるといいなあ？とかなわぬ希望を抱いたものである。



巡礼記(6・7月)

大川 隆

○大阪高松大司教区 生野教会

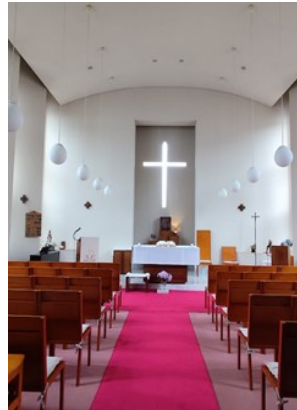
(6月10日)

生野教会は、フランシスコ会の大阪における拠点となっています。以前、フランシスコ会から教

区に生野教会と箕面教会を移管したいとの相談がありました。当時の池長大司教が生野教会はフランシスコ会で続けてほしいとお願ひしたそうです。ステンドグラスが沢山あり、光が差し込むと虹色になるきれいな聖堂で祈りを捧げました。

○大阪高松大司教区 箕面教会 (6月23日)

箕面教会は、半世紀にわたってフランシスコ会の司牧でしたが、2000年4月に教区に移管されました。住宅街にある教会の鐘楼には二つの鐘があり、その鐘の音は地域になじんでいます。岡山聖虚画伯による日本26聖人の一人聖パウロ三木の肖像画は、大阪・関西万博の時にカテドラル玉造教会に貸し出され、万博終了後、前田枢機卿様のお礼の手紙とともに戻りました。十字架上で処刑に携わったすべての人を赦したという聖パウロ三木を想い祈りました。



○大阪高松大司教区 新宮教会 (7月7日)

聖家族に捧げられた新宮教会は、熊野三山の一つ、熊野速玉大社がある新宮市にあります。国道沿いにある教会の前庭から聖堂内へバリアフリーで進むことができます。祭壇正面の白く輝くガラスの十字架を仰ぎ見ながら祈りました。

南山教会青年会 ——ともに信仰を歩む仲間として——

去る9月27日(日)、南山教会の青年たちと、これからの青年会について一緒に考える時間を持ちました。「青年会」と聞くと、「何か活動をしなればならないのでは」「教会の奉仕をするための集まりなのでは」「学校や仕事で忙しく、なかなか参加できない」と思う方もいるかもしれません。しかし、青年会は「何かをしなればならない場所」ではなく、ともに信仰を歩む仲間と出会い、安心して過ごせる場所であってほしいと思います。

青年とは、単に年齢だけで決まるものではありません。「イエス様を知りたい」「信仰を大切にしたい」「教会で成長したい」という思いがあれば、それで十分です。信仰がまだ強くななくても、毎日祈ることができなくても、聖書がよく分からなくても大丈夫です。一

緒に祈り、悩み、考え、少しずつ成長していくことが、青年会の大切な歩みです。

教会には、聖歌、朗読、祭壇奉仕など、さまざまな奉仕があります。それらは大切な働きですが、青年会は奉仕をする人を集めるだけの場所ではありません。学校や仕事、将来、人間関係、そして信仰についての悩みを安心して話すことができる場所でもあります。

今を生きる青年たちは、SNSなどでいつでも人とつながることができる一方、孤独や将来への不安を感じることもあります。だからこそ教会には、「頑張らなくてもいい」「あなたはあなたのままで大丈夫」「一緒に考えよう」と言ってくれる仲間がいることが大切なのだと思います。

イエス様は、私たちに完璧になることを求めるのではなく、「私と一緒に歩いてごらん」と呼びかけてくださっているのではないのでしょうか。私たちも、誰かに優しくする、話を聞く、「大丈夫？」と声をかけるなど、小さな行いを通してキリストの愛を表すことができます。

南山教会の青年会を、「来なければならぬ場所」ではなく、「また来たいと思える場所」にしていきたいと思ひます。一緒に食事をし、話し、笑い、祈り、時には悩みを分かち合い、聖書



について一緒に考える。そんな歩みを大切にしていきたい。そんな歩みを青年会は、司祭やスタッフだけがつけるものではありません。一人ひとりが大切なメンバーです。「こんなことをしてみたい」「こんな集まりがあったらいい」という一人ひとりの思いを大切にしながら、皆さんと一緒につくってみたいと思います。

そして何より、「自分は教会に何ができるのだろう」と考える前に、「私はここにいていいんだ」と思っていてほしいと願っています。
「ここに来ると安心する」「ここには一緒に歩いてくれる仲間がいる」「ここでイエス様に出会える」——そんな青年会を、これから皆さんと一緒につくってほしいと思います。

Sr. アンナ マリア

典礼コーナー

典礼委員会

南山教会の取り組み 聖書リレーについて

聖書リレーは、私たちの信仰の元となる、神様のみ旨を言葉で伝えられている聖書を、もつと身近に感じ、親しんでもらうためにと始められました。

1週間かけて指定された箇所を皆さんが、各ご家庭（個人）で読みますが、共同体の皆さんと読んでいることを目で見える形にとのことから、全主日ミサごとにバトン代わりのファイルを前週の代表の方から次週の代表の方へ渡し、リレー形式でつないでいきます。代表は、南山の信者の方ならお子様からどなたでもできますので、是非、バトンファイルを次へとつなぐリレーにご参加ください。聖

堂入口に参加日を記入してください。

神父様のポイント解説プリントが毎週用意されていますので、今までなかなか一人では読み進められなかった方々でも、聖書の理解の良い助けになることでしよう。また、それだけでなく、聖書を通して、ご家庭（個人）の中での日常生活を生きるヒントにもなることでしよう。

まもなく出エジプト記に入りますが、いつでも聖書朗読は始められます。

過去のポイント解説のプリントが必要な方は、大聖堂入口（青ファイル）にありますので、どうぞお取りください。

ワンポイントひらめき

秋元恭子

10月はロザリオの月です。ある日私はロザリオの祈りをしている時、ふと気付いたことがあります。数年前、私にとって、神様からの恵みとして他の事に比べられないほどのことがありました。この喜びに、何と応えたらよいか。ただ感謝します、賛美します、では収まらないほどの気持ちでした。ある時、喜びの神秘の第二の黙想「マリア、エリサベトを訪問」を祈り始めた時、あつ、これ

だ！と気付き、すごい！と我ながら喜んだことがあります。それはマリア様がエリサベトと挨拶を交わし、お互いに喜び合っていたときのことで。マリア様は「マリアの賛歌」を祈りました。（ルカ1:46-55）「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしめにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人にもわたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、私に偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。・・・」それは私の心境にぴったりでした。よし、この祈りを生涯毎日捧げよう、と心に決めました。この祈りが親しく、自分のものになり、それから毎日、一日の終わりに祈っています。私の心の願いに添えてくださった聖霊とマリア様に感謝いたします。

「ロザリオの祈り会」毎月第一土曜日にロザリオの祈り会を行なっています。コロナの時、大聖堂の片隅で夫と始め、5年経ちました。マリア館ホールで3時半から約30分、ロザリオの祈り一環と共に、教皇様のため、司祭のため、

聖母の汚れなき御心に自分を奉獻する祈り、などを捧げています。現在数名の方と共に祈っています。皆様よろしければ、どうぞご参加ください。その後は、大聖堂にて、御聖体礼拝、ミサと続きます。土曜日の午後霊的なひとときを過ごしませんか。

「典礼暦」について

川原 稔

●【一年を通して救いの神秘を生きたる暦】

典礼暦は、単に教会行事の日付を並べた予定表ではなく、一年の歩みの中でイエス・キリストの救いの神秘を祝い、その恵みにあずかるために教会が整えてきた信仰の暦である。教会は主日を基礎として、キリストの受肉、降誕、受難、死、復活、昇天、聖霊降臨などを記念する。第二バチカン公會議の『典礼憲章』が示すように、教会は一年を通してキリストの神秘全体を展開し、信者がそれに触れて救いの恵みに満たされるよう導くのである。

■【主日と過越を中心に組み立てられる】

典礼暦の中心はキリストの過越の神秘である。特に日曜日は、主

が死者の中から復活された日として、使徒時代から教会生活の中心に置かれてきた。教会法も、主日と守るべき祝日に信者がミサに参加し、神への礼拝にふさわしい時を保つことを求めている。さらに一年の頂点である復活祭を中心に、四旬節、復活節、待降節、降誕節、年間などが配置され、救いの出来事を段階的に味わう道が形づくられているのである。

■【聖母と聖人の記念もキリストへ向かう】

典礼暦には聖母マリアや聖人の祝日、記念日も置かれている。しかし、それらはキリストから離れた別の信仰を加えるものではない。マリアにおいては救いのわざに最も深く結ばれた信仰の姿を仰ぎ、聖人においてはキリストの恵みが人間の生涯に結んだ実りを見るのである。聖人を記念することは、その人自身を目的とするのではなく、神の恵みをたたえ、その模範と取り次ぎに励まされながら、自らも福音に従って歩むよう招かれることである。

★【時間そのものを神にささげて生きる】

典礼暦を生きたるとは、季節ごとの色や行事を知るだけではなく、自分の時間をキリストの歩みに重ねることである。待つ時、喜ぶ

時、悔い改める時、苦しみを見つめる時、復活の希望を祝う時が一年の中に繰り返されることにより、信仰は日常生活の中で養われる。典礼暦は、過ぎ去る一年を単なる時間の流れにせず、主日のミサと教会の祈りを軸として、人生のすべての時を神の救いの光の中で受け取り、キリストとともに歩むための道しるべなのである。

典礼研修会

新内飛鳥

2026年10月3日(土) 布池教会地下ホールにて名古屋教区典礼研修会を開催された。「集い奉げるミサ」をテーマに長崎大司教区司祭 嘉松宏樹神父を講師に招き50名強が集まった。今回は春の研修会(4月25日)とリンクする形で組み立てられていた。4月には「典礼に生きるみ言葉」と題し主に「言葉の典礼」について学びを深めた。今回はミサにおいての後半「感謝の典礼」に重きを置いて理解を深めた。13時より受付が開始され予定時刻の13時30分には名古屋教区典礼委員長フライデルフィ・パヴォール神父(SVD)の挨拶と祈りをもって開会した。嘉松師はまずは前回の内容を思い起こすように語り始めた。ミ

サが大きく分けて4つの場面で構成されていること、すなわち開祭、言葉の典礼、感謝の典礼、閉祭。とりわけ言葉の典礼と感謝の典礼。言葉の典礼が行われる場所は朗読台で主役は「聖書」である点、感謝の典礼が行われる場所は祭壇で主役は「聖体」である点を確認し、焼かれたパンを聖別したものが「ホスチア」と呼ばれることをおさらいした。感謝の典礼はイエスが「パンを取り」「感謝をささげ」「裂いて弟子に与えた」ことに由来していることを説き、ミサの中では①パンを取り②供えものの準備、②感謝をささげ③奉獻文、③裂いて弟子に与える④交わりの儀がそれぞれに当たっている。また、感謝の典礼に用いられる言葉は聖書からしっかりと採られていることが、例を示しながら解説された。ミサにあずかる信徒にはその暮らしの場面でイエスの体をもたらず役割があり、キリストの体の見える印となることが望ましいのだ。ミサとは「遣わされる」こと。ミサイルやミッションなどの言葉が同じ語源を持っていることを知ると「なるほど」とうならされる。ミサで裂かれたキリストを拝領した人々はキリストを内に秘め一致する。それぞれの暮

らしの場で皆がイエス・キリストを証すように派遣されるのだ。

典礼一口メモ 香部屋の窓から 第97回 「テキスト」のお話

香部屋係 新内飛鳥

ミサやその他の典礼で私たちはテキストを使います。便利なものではなく、実は落とし穴もあります。ミサで使っている「聖書と典礼」には当日の祈願文や聖書朗読の箇所や答唱詩編、アレルヤ唱、共同祈願が記載されています。ですから典礼に携わる全ての人に共通のテキストです。とても便利です。ですが、聖書が読まれている場面では、読んでいる奉仕者以外の人は「聴く」ことに心を傾けたのです。ところが手元にテキストがあるとなつて「目で追ってしまう」これは、実は少し残念なことなのです。勿論、身体の状態によつて耳で聞くことが困難な時には「目でみ言葉を聞く」こともあります。それはそれで良いのです。ところが儀式に参列する人の多くがテキストに目を落としていて、ことで典礼を味わい尽くせていないとすれば勿体ないことです。また、ミサに限らず、他の典礼でも祈りの言葉や流れなどは出来るだけ頭に入ると良いと思います。TVや映画、舞台の俳優さんは台本

を見ながら芝居をしませんよね。

登場人物がみんな手元を見ていたに異様です。聖書と典礼には、その日固有の情報が載せてありますから必要な奉仕者には、その場面で目を離せませんが、ミサで言えば流れや応唱、ミサ賛歌などの交唱、主の祈りなど定番の言葉は、多くの方がそらんずることが出来ます。そしてその多くは司祭と奉仕者、会衆の対話によつて成り立っています。テキストではなく、司祭の様子や祭壇の状況に目を向け適切なタイミングで必要な「言葉」を口にできることが望ましいです。同様にミサ以外の典礼の場面でも定番の祈りなどは出来るだけ慣れて身に着けたいですね。それなのにもう一つの落とし穴は「覚えにくくなる」ことです。テキストの完成度が高いほど「頼ってしまう」。大袈裟な言い回しですが「これがあれば誰でも出来る」という完成度の高いテキストは、ややもすると「これがなければきちんと出来ない」という弱点を併せ持つてしまうことに繋がります。年に一度しかない特別な典礼もありますから「ない方がいい」とは思いませんが、普段の典礼については「なるべくテキストやマニュアルは見えない」ことがより雰囲気を高め美しい典礼に

つながるように思います。口語訳がたびたび変わってしまう祈りの言葉もあつて「見ないと唱えられない」時期もありますよね。でも、出来るだけ言葉を頭に入れて「目」をテキストから解放し、典礼の風景を味わうようにしたいと思います。

松浦司教様の説教から

伊澤美由紀

9月20日(日) 松浦司教様説教
(イザヤ55・6-9、フィリピ1・20c-24、マタイ20・1-16)

日本の社会では、今週は「シルバーク」って言われています。そしてちょうど私たちは、高齢者のために祈る日を迎えています。高齢になっていくと、その時代を「人生の秋」と考えたり、これまでの人生の歩みを振り返ったり、また、これから死を迎えていくということを意識し始めます。今日、祝福を受けられるのは75歳以上の方です。皆さんにはカードが届いていると思います。実は、来年私はそちらに行きます。来年75歳です。けれど、教会でそのことを伝えると、「まあ、なんて若い。私は90歳よ」と言われます。高齢化社会が進んでいます。今年3月の時点で、100歳以上の方は1

07, 677人と新聞に書いてありました。すごいですね。私の母も96歳です。それにしても、私たちは年齢を重ねるにつれて、「死」というものと「生きている



こと」を一緒に考え始めます。本当は、高齢者だけではなく、みんな。すべての人がそうなのです。というのは、「生」と「死」は隣り合わせだからです。いつ私たちがこの世のいのちを終えるのか、誰にも分からないからです。その意味で、高齢者だけでなく、私たちみんなが「生」と「死」を共に生きているということを、一緒に考える必要があります。今日の三つの朗読は、そのために多くの示唆を与えてくれる箇所です。第二朗読のパウロのフィリピの教会への手紙の中で、パウロ

うことがあります。「私は人生の中で間違ったことをしたな。」



か。どちらも良いことには違いありません。しかし、神様の思いはどちらにあるのだろうか、と少し悩みました。そして、もし私が神様の思いと違う方を選んだらどうしよう。神様はどう思われるのだろう。そこが心配だったのです。「どうしよう。困ったな」と思いました。今日の第一朗読、イザヤ書55章は、私が好きな箇所です。神様は、「私の思いとあなたたちの思いは違う」と言われます。その思いは違ったら、私たちは悩んでしまします。しかし、その後で神様は、「私の思いは、あなたたちの思いを超えている」と言われます。「超えている」のです。私たちの思いと神様の思いは、単に「間違っている」「正しい」という関係ではない。神様の思いは、私たちの思いをはるかに超えているのです。もし私が人生の中で過ちを犯したり、失敗したりしたとしても、そのことによって、すべてが終わるわけではありません。神様の心ではないことをしてしまつたとしても、その過ちを犯した人生の中に、キリストは共にいてくださる。そして、その中で私たちに呼びかけ、一緒に立ち上がって、また歩み出させてくださるので、自分の使命を生きていく。その

うすると、「私は過ちを犯した。それは悪かった。しかし、その経験がなかったら、今の自分はない」と思えることがあります。そして、「神様、ありがとうございます」と感謝したくなる。イエス様は私たちと一緒に歩み、その人生を完成してくださるので、だから、単純に「間違いない」のではない。神様の思いは、私たちの思いを超えている。だからこそ私たちは、その私たちを超えている神様を信頼し、従っていくのです。失敗して倒れたら、その中で語りかけてくださるキリストの声を聞いて、また立ち上がる。そのようにして私たちは、神様の思いと共に歩んでいくことができるのです。この二つの朗読を通して、「神様の思いは私たちの思いとは違う。そして、神様の思いは私たちの思いを超えている」ということが示されています。

その一つの例が、今日の福音です。常識的に考えたら、朝9時から働いて一デナリ。今のお金で一万円くらいと考えます。朝から来て働いた人も一万円。夕方5時に来て、少しだけ働いた人も一万円、一デナリ。「不公平ですよ」と思います。この話を讀んでいるのですが、私たちがしたら不

はこう言っています。「生きるのも死ぬのも主のためです。」ここで「生きる」と「死ぬ」と「死を迎えることについて、分らないし、不安でもあります。しかし、パウロは一貫して言っています。「生きるのも死ぬのも主のためです。」このことを、コルベ神父様は分かりやすく説明してくださっています。私は、両手で神様のため、人々のために働いてきました。しかし、生きていたときは、片方の手で自分のために働き、もう片方の手で人々のために働きます。なぜなら、この世で生きているということは、どうしても自分自身のためにも働かなければならないからです。生活をした

り、仕事をしたりしなければなりません。しかし、天国へ行ったら、両手で皆さんのために働きます、とコルベ神父様は言うのです。コルベ神父様にとっても、生きることも死ぬことも、一貫して主のため、人々のために働くことなのです。生きていても、死んでも、そのことは変わらない。これは私たちににとっても、大きなヒントになるのではないかと思います。

神様の思いと自分の思いが違っていたのに、神様の思いに従わなかったな。」そのような経験は、誰にでもあると思います。私も皆さんに話したことがあります。私は神学校に入って、一度やめました。そして、学校の先生を二年間しました。その時、私は悩みました。神様の思いは、私に司祭になつて働いてほしいということなのか。それとも、学校の先生になつて、子どもたちのために一生懸命働いてほしいということなのか。

第一朗読では、私たちが時々、人生を振り返ったときに、こう思

公平、不平等」と思います。信徒でない人や学校の先生がこの箇所を読んで、「これはいただけません」と言うかもしれません。それは、私たちが自分たちの常識の中で考えているからです。では、神様の思いはどうでしょうか。先週の福音を思い出してください。一万タラントンの借金をしている人が、主人に「ごめんなさい。もう少し待ってください」と願いました。すると主人は、その借金を帳消しにしてくれました。ところが、その人は喜んだと思ったら、自分に百デナリオン借りている人を見つけて、「返せ」と言う。「もう少し待ってください」と言われても待たず、その人を牢に閉じ込めてしまいます。一万タラントンの借金を主人から赦してもらったのに、百デナリオンを赦すことができない。これはどういうことでしょうか。先週聖書と典礼に記載があったと思います。一万タラントンの借金というのは、何日分の給料かというと、約16万年以上分の給料だと言われます。16万年以上ですよ。私たちには想像もできません。一方、百デナリオンは百日分の給料です。今のお金で考えれば、約100万円、給料の三か月分くらいでしょう。16万年分の借金を赦してもらったのに、三か月分

の借金を赦すことができない。これが先週の福音でした。今日のデナリも、確かに一日分の賃金です。しかし、主人である神様が私たちに約束してくださる一デナリは、実は一万タラントんに匹敵するものなのです。

つまり、永遠のいのちです。

「ぶどう畑で働きなさい。あなたに報いてあげよう。」その報いは、私たちの計算では測ることのできないものなのです。16万年分と言うと、少しはイメージできます。だから、「私はあなたより五時間前から働いたのだから」と言えることではないのです。もう違うのです。比べることそのものが違う。神様の思いが私たちの思いを超えているというのは、そういうことなのです。私たちはカトリック信者だから、人を愛さなければならぬ。人を赦さなければならぬ。「カトリック信者でなければ、赦さなくてもよかったのに」と思う人もいるかもしれません。しかし、神様が私を赦してくださった。「あなたを赦そう。あなたの代わりに私は十字架で死ぬ。」神様が、私のためにいのちを捨ててくださったのです。信じられないことです。コルベ神父様が、「私が代わりになりました」と言って身代わりになったた

う。少し沈黙して、心の準備をしましょう。

めに、本来死ぬはずだった囚人が生きることができました。その人は、その後どのように人生を送ったのでしょうか。あまりのありがたさに、「コルベ神父様が私の代わりに死んでくださった。私はその命をいただいて生きている。では、私はどうやって人生を生きたらいいのだろう。せめてお返ししたい。」そのような思いで、人生を歩むしかない。本当に私たちが、神様が私たちの思いをはるかに超えて与えてくださったものを少しでも知ったならば、「愛さなければならぬ」「赦さなければならぬ」というより「赦さざるを得ない」「せめて少しでも愛さずにはいられない」という思いになるのではないのでしょうか。それが、私たちの信仰の動機なのです。そのような、私たちの思いをはるかに超えた神様の思いに、少しでも触れたい。少しでも近づきたい。そのように思います。今日、祝福を受ける皆さん、この人生の中で、本当にどれほど多く主が共にいてくださり、どれほど多くの恵みを与えてくださったことでしょうか。そのことを感謝しながら、また、その恵みが皆さんだけでなく、すべての人に行き渡りますようにと願いながら、病者の秘跡を受けましょ



アッシジの聖フランシスコ

神のしもべは罪以外のどんなことも不愉快に思ってはなりません。だれかがどのような方法で罪を犯しても、このために神のしもべが、愛以外の動機で心を乱したり、怒ったりするなから、「自分自身にあやまちを蓄えています」(ローマ2・5)

どんなことにも怒らず、心を乱さない神のしもべは、何も自分のものとせず、正しく生きています。そして、「皇帝のものを皇帝に、神のものを神に返し」(マタ22・21)、自分のために何も残しておかない人は幸いです。

神のしもべが主の霊を持っているかどうかを、次のようにして知ることができます。主がそのしもべを用いて何かの善をなさった時、彼の肉がそれを誇らず、(というのとは、肉はあらゆる善に逆らうものだからです)かえって、彼の目に、自分がますますつまらない者に映り、他のすべての人より小さい者と思ふなら、主の霊を持っています。

聖フランシスコ小品集より

維持費納入について

維持費の袋は教会事務所にて保管しております。

事務所にて直接ご納入下さるか、以下の口座にお振込み頂くこともできます。よろしければご利用下さい。

○三菱UFJ銀行八事支店 普通預金 1737813

カトリック南山教会 維持費口

○郵便口座 00880-8-70893

カトリック南山教会

財務委員長 伊藤恭輔

もしもの時は・・・

ご家族のもしもの時は、

事務所営業時間内の場合：事務所へ

時間外の場合：①特定の葬儀屋さんお持ちの方はそちらへ

②南山教会でご案内希望の方は

ディーズ 052-702-0040

2026年 南山教会バザー
10月25日(日)11時ごろ(9:30 ミサの後)
手をとりあって、神の愛を



カトリック南山教会のホームページを見ることが出来ます。
教会の出来事など、見てみて「ヤッ」

バザーに来てくれる人は、なるべく電車まで来てね。
カトリック南山教会 バザー実行委員会

2026年10・11月行事予定表

	教会典礼暦	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
10月	ロザリオの月	11(日)聖堂・聖堂横トイレ・教会周辺清掃 25(日)共同体合同ミサ 25(日)教会バザー	2(金)マリア会例会(懇談会) 4(日)小教区宣教司牧評議会 18(日)ヨセフ会班長会 24(土)子ども部屋・典礼委員会 24(土)要約筆記付きミサ	4(日)宣教司牧評議会 11(日)東八事第一墓地合同追悼ミサ 17(土)レジオマリエ黙想会 18(日)世界宣教の日(献金) (土)神言会司祭叙階式(南山教会)
11月	1(日)諸聖人の祭日 2(月)死者の日 9(月)ラテラン教会の献堂 22(日)王であるキリスト 29(日)待降節第一主日(B年)	(日)予算審議開始 1(日)納骨堂追悼ミサ14時(大聖堂) 8(日)聖堂・聖堂横トイレ・教会周辺清掃 15(日)子どものミサ(七五三) 29(日)共同体合同ミサ	1(日)小教区宣教司牧評議会 6(金)マリア会例会 15(日)ヨセフ会班長会 28(土)子ども部屋・典礼委員会 28(土)要約筆記付きミサ ()中高生会遠足	1(日)東八事第二墓地合同追悼ミサ 15(日)城東ブロック会 15(日)~22(日)聖書週間 21(土)レジオマリエ名古屋クリア